

年間研修計画の工夫

小学校

児童の実態を共通理解し
一貫した指導や支援を行うための取組

活用した資料

校内研修プログラム P22、24
—個別の教育支援計画の作成—
—学級づくり—

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童の実態把握及び全教職員が連携した指導や支援を実践するため、年4回の校内研修と年3回の児童理解交流会を実施しています。

今年度は、特別支援教育コーディネーターが講師となり、校内研修プログラムを活用した個別の教育支援計画の作成や活用についての研修を行っています。

特に、教育局が示した様式による個別の教育支援計画の作成や活用について理解を深めた研修では、児童への支援内容、本人・保護者の願い等、指導上必要な情報を記載すること、学年間・学校間の引継ぎのためのツールであることについて共通理解を図りました。

研修後は、全教職員が児童への言葉かけのタイミングや適切な指示の仕方、支援が必要な場面を共通理解し、一貫した指導や支援を行うことができるようになりました。

さらに、研修資料は、幼稚園や保育所、小・中学校等のほか、関係機関が支援の見通しを共有するため、校内はもとより、保護者懇談や市の特別支援教育連携協議会の資料としても活用しました。

- 5月 児童理解交流会
- 7月 発達障がいに関する研修「個別の教育支援計画①」
- 9月 児童理解交流会
- 10月 発達障がいに関する研修「個別の教育支援計画②」
- 11月 児童理解交流会
- 12月 発達障がいに関する研修「個別の教育支援計画③」
- 1月 発達障がいに関する研修「校内の連携」

【特別支援教育に関わる校内研修】



【児童理解交流会の様子】

○ 実践の成果

本取組では、児童理解交流会において児童の実態を共通理解し、研修において児童の課題と指導や支援の内容を共有することにより、全教職員が発達障がいの特性について理解を深めることができました。

また、特別な教育的支援を必要とする児童への支援や、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりについての意識が高まり、全教職員が共通した指導や支援を心がけるなど、本校における特別支援教育の充実につながりました。